



農場からシンカする

# オープンAPI検討会資料

## ～有限会社穂海農耕の現場から～

株式会社 穂海  
有限会社 穂海農耕

代表取締役 丸田 洋

# 穂海の所在地のご紹介

## 【新潟県上越市板倉区】

人口：6,703人（平成31年4月1日）

面積：66.51km<sup>2</sup>（平成23年）

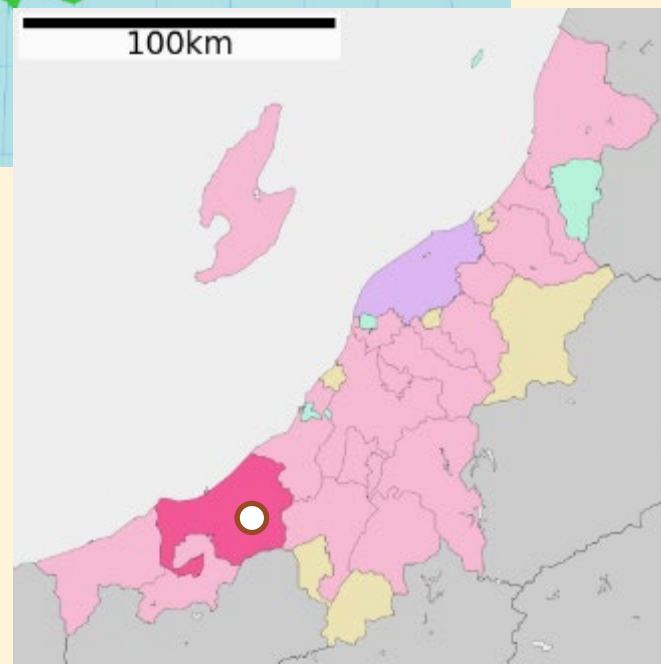
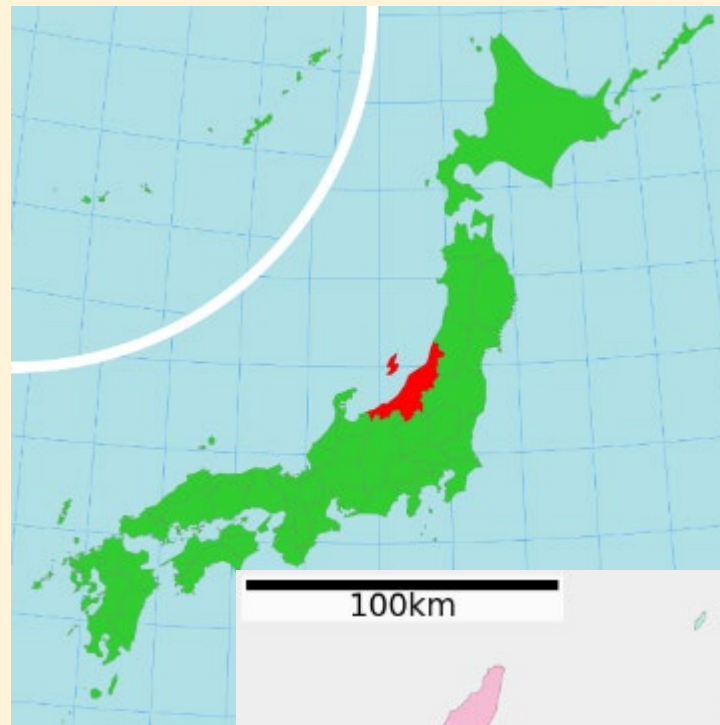
経営耕地面積：995ha（平成27年農業センサス）

ほぼ水稲のみの、穀倉地帯。

集落営農が多く、大規模な生産法人は弊社のみ。

北陸新幹線の開業により、上越妙高駅が  
でき、東京まで2時間弱。

弊社から上越妙高駅までは車で15分！



農場からシンカする

# 会社概要（有限会社穂海農耕）

令和2年2月1日現在



農場からシンカする

設立	平成17年12月1日	資本金	1,599万円
所在	新潟県上越市板倉区田屋104番地2 TEL 0255-78-5710 / FAX 0255-78-5720		
役員	代表取締役 丸田洋 / 取締役農場長 日比昇	従業員数	19名
経営面積	約160ha		
事業内容	水稻の栽培・作業受託業務（水稻苗播種、乾燥調製、他主要作業等） 主に業務用米を中心とした栽培を行っています。実需者の皆様のご要望にお応えしつつ、作期分散も可能となる様な、極早生から超晩成までの複数の品種を栽培しています。		
栽培品種等	ちほみのり（極早生）／ ゆきん子舞（早生）／ とよめき（早生）／ つきあかり（早生） コシヒカリ（中生）／ にじのきらめき（中生）／ 笑みの絆（中晩生）／ みずほの輝き（晩生） やまだわら（晩生）／ 恋初めし（晩生）／ みつひかり（超晩生） 他試験品種等 ※販売用途：主食用、加工用、輸出用		
その他	・ ASIAGAP穀物Ver.2.2 認証農場（認証番号MIC-S-A150000007） ・ 平成25年度 日本政策金融公庫 アグリフードEXPO 輝く経営大賞受賞 ・ 平成29年度 未来につながる持続可能な農業推進コンクール GAP部門「農林水産大臣賞」受賞 他		

# 会社概要 (株式会社穂海)

令和2年2月1日現在

設立	平成23年6月1日	資本金	2,700万円
所在	＜本社＞ 新潟県上越市板倉区田屋104番地2    TEL 0255-78-5710 / FAX 0255-78-5720		
役員	代表取締役 丸田洋 / 取締役 日比昇	従業員数	4名
事業内容	米穀の集荷・販売 / 米穀の農産物検査 / 作業受委託業務（農作業、精米・出荷業務） 生産調整方針作成者 / 農場運営コンサルティング（GAP） 農業者向け教育コンテンツの作成及び実施（研修、講習会の立案・企画・運営）		
取扱い品目 (集荷・販売)	米穀（業務用、一般主食用、加工用等）		



農場からシンカする





# 穂海におけるICTの導入



◀社内勉強会

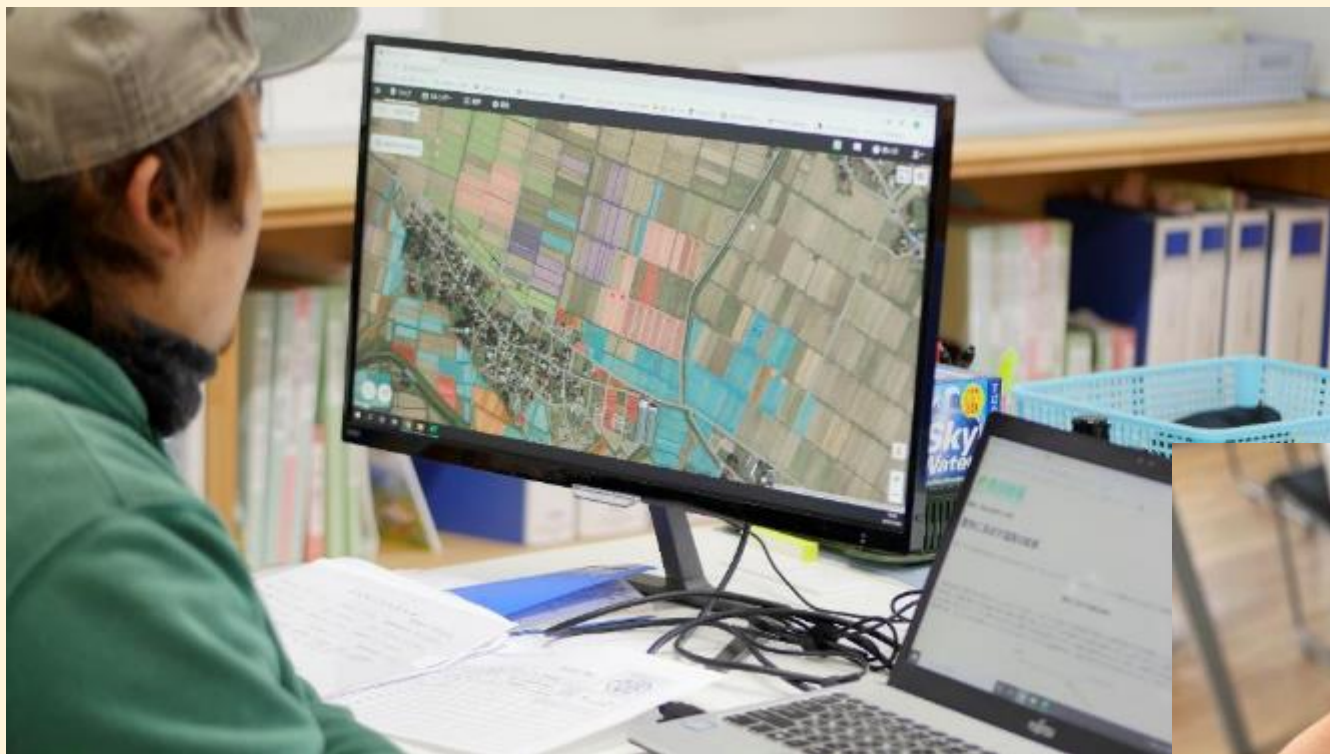
▶ソフトウェアを利用した  
圃場管理



# 穂海におけるICTの導入



農場からシンク化する



▲栽培管理担当者がデータ分析などを行う

▼社員全員が各端末から作業データを登録







# 穂海におけるICTの導入

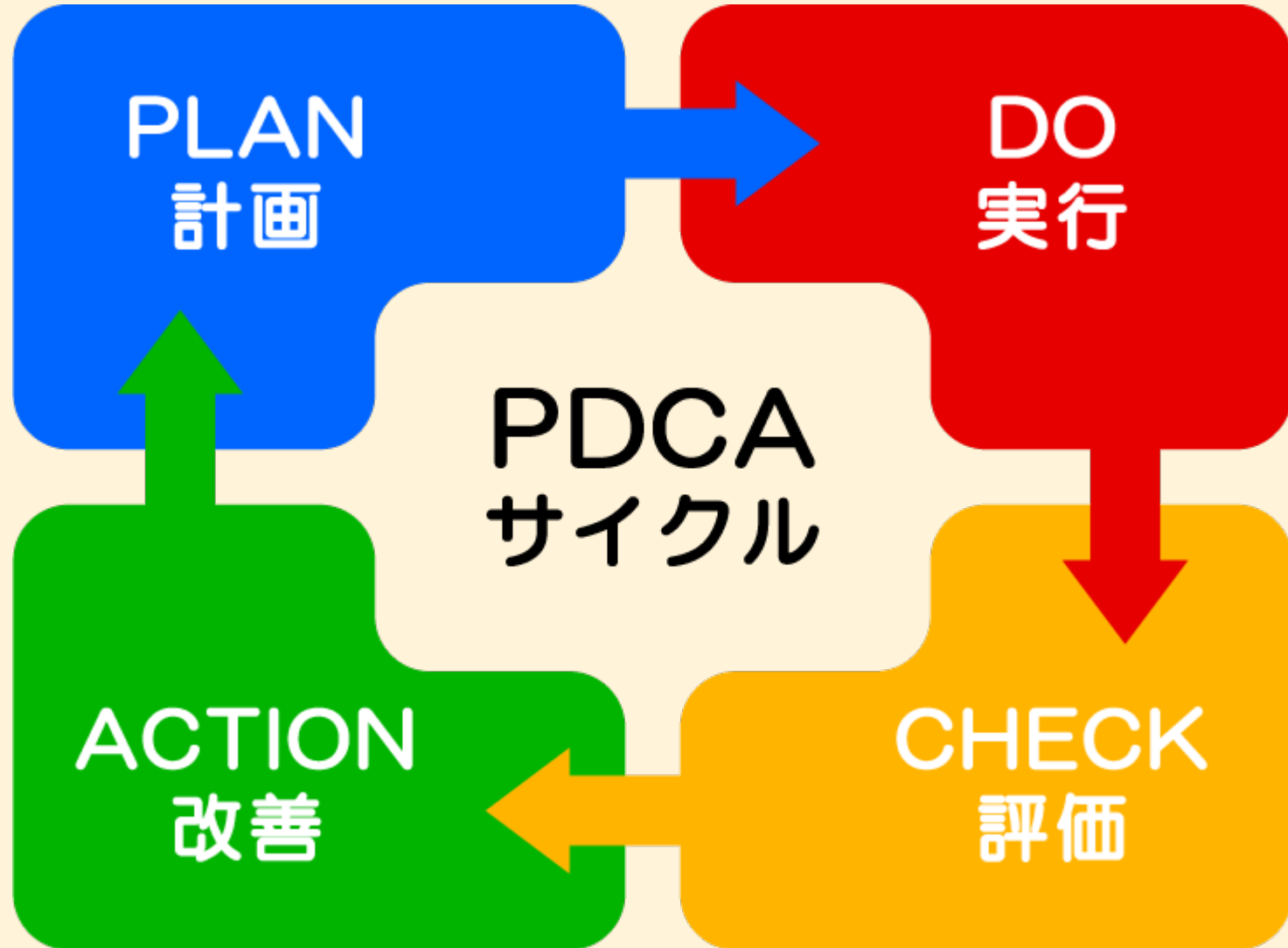
生産者コード	000 なし	001 (有)穂海農研	003 田川洋一	004 (有)さわだ	006 (有)板屋農場	007 市村
銘柄+品種+等級(グラフ集計用項目)	0.00 俵	508.63 俵	35.56 俵	0.00 俵	0.00 俵	5.0
(とよめき) - 1等						
(ちほみのり) - 2等		0.00 俵				
美みの絆 - 1等		58.50 俵				
恋初めし(中国218号) - 2等		0.00 俵				
恋初めし(中国218号) - 1等		0.00 俵				
天のつぶ - 2等						
天のつぶ - 1等						
五百万石 - 2等						

▶クラウドソフトを利用した  
在庫管理や資材管理

肥料区分	名称	備考	保管場所	パッケージ画像	在庫数(袋・本)	ハンパ在庫数(kg・噸・バツク)
化成系	LPコート70		ヒガシ作業所		5	0
化成系	LPコートS100緩効肥料		ヒガシ作業所		8	14.9
リン酸系	PKカル		ヒガシ作業所		6	0
有機系	発酵鶏糞		ヒガシ作業所		0	0
化成系	一発肥料30-6-6	すくすく366水稲用	本社駐車庫		7	10
化成系	みのりUP		ヒガシガレータ		0	0
化成系	アグリ化成オール14		ヒガシ作業所		3	11
化成系	オキセパワー		ヒガシ作業所		1	0
リン酸系	遅リン酸石灰		ヒガシガレータ			

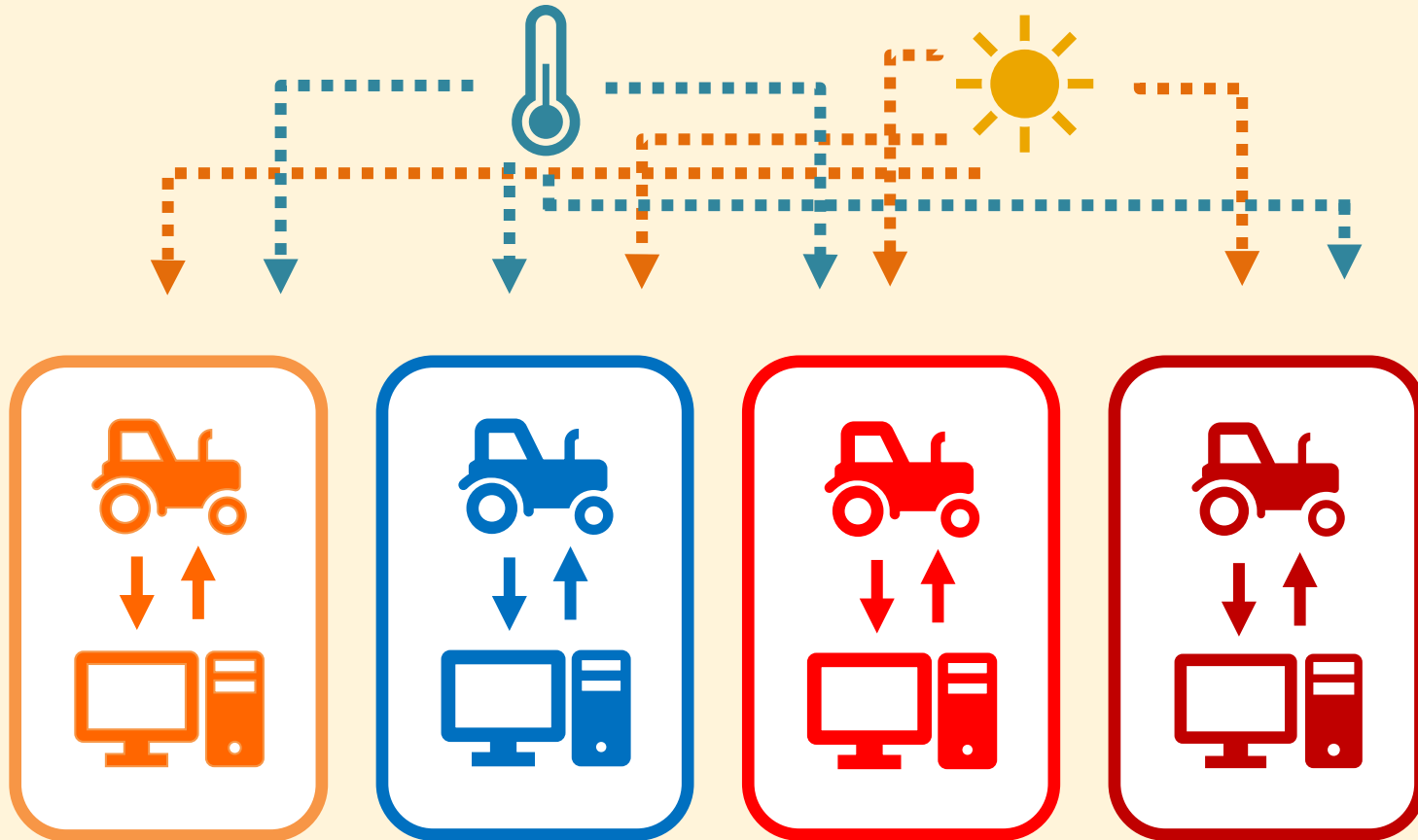


# 穂海の考えるICTの必要性





# 現状の課題



ユーザーファーストではない弊害

## 【課題】

メーカー毎に利用できるソフトウェアがほぼ決まってしまう。  
ソフトウェアを変えようと思うと、農業機械との連携が取れなくなってしまう。



## 【結果】

- ・スマート農機は使わない
- ・もしくは、ソフトウェアと連携させない

# 将来あるべき姿（希望）



連携の縛りがなくなることにより、ユーザーが利用しやすい環境を作りやすくなる。



## 【結果】

- ・利用率の向上
- ・スマート農機の普及
- ・農業IT界隈の活性化